令和6年12月4日招集

第7回小坂町議会(定例会)

発言通告書

発言順	議席番号	氏	名	発言の種別	出	席	要	求	者	
1	2	工藤	文 明	一般質問	町				長	

- 1. 行政視察などを積極 的に受け入れる町づく りを望む
- 2. 職員の居住区域の現 況と災害発生時の初動 態勢について

- 3. 「宿泊税」の導入に ついて
- 4.「道の駅十和田湖」 に物申します

(発言の内容)

議会の各委員会は今年度、行政視察へ出向いて参りました。

他の地域を訪問させていただくことによって、各種課題に対する取り組みを数多く学ぶことができました。

小坂町でもぜひ、得意分野をさらに磨き、他市町村からの行政視察などを積極的に受け入れてもらいたいと望みます。このことについて町の現状と意向を伺います。

令和6年11月1日現在、特別職を除く職員79名、会計年度任用職員48名のうち、職員は26.6パーセント、会計年度任用職員は22.9パーセントが、小坂町以外に居住されているということですが、この現状について町長のご意見をいただきます。

職員の居住地については制限されるものではないことを十分に承知した上で、災害が発生した場合の初動時にどのような態勢で臨んでいくつもりなのかを伺います。

新たな財源確保の狙いから、いくつかの自治体で「宿泊税」の導入を始めています。税収については、自治体が条例に基づいて使い道を独自に設定できるため、町の観光産業振興に活用することもできますので、検討する余地があると考えます。今後、「宿泊税」導入のお考えがあるかどうかを伺います。

「道の駅十和田湖」がオープンしてから2カ月になろうとしています。十和田湖が最も美しい紅葉の季節と重なり、施設が混雑したことも伺っています。間もなく十和田湖は厳しい冬を迎えるわけですが、これまでの集客状況や運営状況などから、「道の駅十和田湖」に課題がございましたら、町のご意見をお聞かせ願います。

発言順	議席番号	氏	名	発言の種別	Ŀ	出	席	要	求	者
2	7	木村	則彦	一般質問	町長・教育委員会の教育					教育長

- 1. 認知症予防対策について
- 2. 七夕祭の振興につい て

3. 広域観光について

(発言の内容)

- 1. 令和3年から5年度までの新規要介護認定者の申請理由を見ると、認知症によるものが多いとの統計があります。近い将来は介護者不足も心配されることから、今まで以上に認知機能向上への理解や対策が必要かと思いますが、現在の町の状況と今後の対策について伺いたい。
 - 8月22日に開催された町長との懇談会において、若い方から有志で七夕を製作・運行したいが、初期費用分を町で支援いただけないかとの発言がありました。その中で町長は、支援を検討したいとのお答えだったと思います。そこで下記の2点について伺います。
- 1. 町の伝統文化である七夕祭の継続と、若い方々による 活動で地域の活性化を図るということからも、町長はそ の若い方々の発言・行動に対してどのような思いを感じ られたのか伺いたい。
- 2. 町は七夕振興会を通して、若い方々による七夕製作に対し、具体的にどのような枠組みでの支援を検討しているのか伺いたい。
- 1. 大館市が中心となって行っている秋田犬ツーリズムについて、前市長が交流人口の拡大を目的に実施してきたが、市政が変わったことで今後の長期的な取り組みへの継続性について伺いたい。また、財源について今まで国の交付金等を活用しながら運営してきたと思うが、今後の財源確保について併せて伺いたい。
- 2. 今年度から、鹿角市と連携して地域連携DMOによる 観光プロモーション事業を始めたが、十和田八幡平観光 を推進する上で今まで以上に鹿角市との連携が必要になっ てくると思う。かづのDMOへの町が参画する部分の来 年度以降の事業展開や、DMO以外での鹿角市との広域 観光連携について伺いたい。

発言順	議席番号	氏	名	発言の種別	出	席	要	求	者	
3	3	菅原	明雅	一般質問	町				長	

1.「介護人材確保」の取り組みについて

(発言の内容)

今年6月議会で、町内施設における「介護や医療に携わる人材不足」が懸念され、高齢者が安心して暮らすためには、何より「介護士看護師の安定的な人材確保」が必要だと申し述べました。町当局も、「介護人材不足は全国的な傾向であり、介護人材の量的確保を行い、質の高い安定的な介護サービスの提供ができるよう対策を講じなければならないと考えております。」と回答しております。そこで、

- 1. 町としてその後講じられた対策がありましたら、お伺いしたい。
- 2. 当町議会総務福祉常任委員会としても、「介護人材の確保」は喫緊の課題であるとして、介護人材確保に取り組み成果を上げている北海道栗山町・東川町を視察・事務調査してまいりました。また副委員長と大館市の秋田看護福祉大学を訪ね、勉強させていただきました。確かに「介護人材の確保」は解決策の見いだしがたい難題です。しかし、さらなる少子高齢化社会は進行するわけで、「介護人材の確保」は喫緊の課題であり、そのための具体的な対策を講じなければならないことに変わりはありません。

そこで、同様の状況にある大館市、鹿角市、北秋田市、 上小阿仁村と広域連携し、「介護人材の量的確保を行い、 質の高い安定的な介護サービスの提供ができるよう対策 を講じる」介護人材不足対策に特化した協議会を立ち上 げることを提案いたしますがいかがか、できれば町長に はそのリーダーとなってイニシアチブを発揮していただ きたいと思いますが、いかがでしょうかお伺いしたい。

2. 高校跡地利用に関する「議会対応(議会への報告等)について」

「高校跡地利用」については過去3度(令和4年6月議会、令和4年12月議会、令和5年12月議会)一般質問をしました。他議員も同様の一般質問をしております。加えて、今春の町議選においても、「高校跡地利用によって町の活性化につなげたい」との候補者が多かったように思います。総じて、高校跡地利用は町民の大きな関心事です。

昨年令和5年12月議会において、町長も「利活用について検討する協議会の立ち上げを担当部署に指示している」と回答し、その際「私の提案を協議会でのたたき台の一つにしていただき、町に元気を与えるような高校跡地の利用に期待しております。」と申し述べました。私の提案に拘泥するつもりはありません。より良い施策があれば進めていけばよい、と考えています。

問題は協議会の立ち上げ等、議会に一切報告がないということです。議会に報告しないその理由とその意図をお聞かせ願いたい。

発言順	議席番号	氏	名	発言の種別	出	席	要	求	者
4	4	鹿兒島	巖	一般質問	町				長

1. 役場での男女共同参画・ジェンダー平等への取り組み、また職員の雇用形態別処遇に関わって

(発言の内容)

- 1. 役場の一般職職員75名(内男性46名女性29名)の中で、職務職階の状況を見ると、7名の課長職の内男性が6名、女性が1名。課長補佐で男性が15名、女性が5名となっているが、男女共同参画・ジェンダー平等への取り組みを進める中で現状をどう捉えているか、今後の取り組みをどう考えているか。
- 2. 町職員の雇用形態は正規採用・再任用そして会計年度 任用の3形態であるが、最近の形態別職員数の推移を見 ると正規採用職員が減少し、会計年度任用職員が増加傾 向と受け止めており、本来は正規雇用職員・一般職が担 うべき通常業務を、会計年度任用職員等が担っているの ではないかとの懸念から、質問と提案をしたい。
 - (1) 行政水準の維持・向上と公務労働の質の維持・確保 には正規雇用職員の配置が必要不可欠であり、この点 から現在の雇用形態別職員数、職員配置の問題はない か。
 - (2) 同一労働同一賃金の観点からの問題点はないか。
 - (3) 会計年度任用職員の処遇改善への取り組み状況はどうか。
- 2. 増え続ける空き家へ の対策について
- 1. 少子高齢化と相まって人口減少に歯止めがかからない中で、空き家の増加が看過できない状況となっている。

先の中央地区での町政座談会でも不安の声があったと聞くが、これは全町の問題であり、私自身もこれまで何度か取りあげてきたところであるが、現状を踏まえて質問と提案をしたい。

- (1) 全町及び地区別の空き家の状況はどうか。
- (2) 空き家解消対策をどう考えているか。
- (3) 空き家解体費用助成等の強化が必要と考えるがどうか。

発言順	議席番号	氏 名	沿 発言の種別	出席要求者
5	6	本田佳-	子一般質問	町長・教育委員会の教育長 選挙管理委員会の委員長

(発言の内容)

- いて
- 1. ヤングケアラーにつ 1. 当町ではヤングケアラー、家事や家族の世話を日常的 に行っている児童生徒(小学生から高校生まで)の実態 調査は行われているのか。
 - 2. ヤングケアラーが確認され、子ども自身の権利が守ら れない状態にある場合、どのような対策を考えているの か。
- 2. 選挙の投票の方法に ついて
- 1. 選挙の投票について、回数を重ねるたびに、投票をさ れる方が高齢化したため、歩行が困難であったり、免許 返納をしたため足がなくなり、投票場に行くことが億劫 になった、投票しなかったという方の声をいろいろな地 域で聞いている。当町では、高齢者、身障者など移動困 難の方に対する対応策など考えているか。

発言順	議席番号	氏	名	発言の種別	出	席	要	求	者	
6	8	秋元	英 俊	一般質問	町					長

(発言の内容)

- 1. 小坂町上水道について
- 1. 自然界でほとんど分解されず「永遠の化学物質」と呼ばれている有機フッ素化合物=PFAS. 2023年、高濃度のPFASが水道水から検出されたことが明らかになった事例(岡山県吉備中央町)が発生、検査を受けた住民の血中濃度の平均は、健康リスクが高まるとされる値の9倍以上検出された。水道水の安全性を確認する意味で、このことを含めた検査等をしているのかを伺います。
- 2. ワクチン予防接種について
- 1. 10月1日から、自治体による新型コロナワクチンの 定期接種が始まりました。「5類移行」から1年半にな りますが、いまだ感染は衰える兆しはなく、入院に至る ケースも見受けられます。小坂町での感染の現状と、ワ クチン接種状況はどのように推移しているかを伺います。
- 2. RSウイルス感染症について、RSウイルスは、2歳までにほとんどの子どもが初感染を受けることが知られています。このRSウイルス、大人で基礎疾患を有する方や高齢者では、入院率が高いことや、死亡例があることから、小坂町として、感染予防を呼び掛けるとともに、接種に関して補助ができないかを伺います。
- 3. 議会BCPについて
- 1. 第12次小坂町地域防災計画において、災害対策本部の構成図や災害対策本部の各部・各班等の事務分担等を確認しても、議員についての項目が皆無であることから、災害時でも議会の役割を確実に果たすための「小坂町議会業務継続計画(議会BCP)」の設定をすべきと考えますが、町としての考えを伺います。
- 4. 十和田湖火山について
- 1. 先ごろ、十和田湖において、火山性地震が1日で110 回観測されました。住民の方々が不安視する中で避難体 制など、町が積極的に周知し、安全な体制を再度確認す るべきと考えますが、町はどのように考えているかを伺 います。